

妙高連山山頂にも2回ほど新雪がふり来月中旬には当農園の周辺にも降雪が見られるようになる時期となってきました。秋の収穫の終わった圃場では、来年の稲作り準備を始めています。

まず、有機肥料の鶏糞、米糠、籾殻燻炭をダンプトラック1台分トラクターで全圃場にすき込み、その後刈り取った稲藁を少しでも早く腐らせて有機肥料として圃場に還元するための秋耕耘を行いました。

来春は、雪解けを待ってすぐに再び有機肥料とミネラル肥料等をすき込んでから、春の耕耘を行うこととしています。

ダンプトラックイッパイの有機肥料とトラクターを使用したの圃場へのすき込み作業



今年の圃場での農作業も全て終了し、トラクターやコンバインを始めとする春から秋の収穫まで使用してきた、農機具も点検整備を済ませ格納庫に収納しました。

新潟の雪も半世紀前までは、3mを越える豪雪の中では屋外の農作業は元より生活を行って行くだけでも大変な障害となってきましたが、今日では雪を利用したスキー産業を始めとして、生活関連道路網の除雪無雪化が進み、よほどの豪雪でないかぎり交通が確保される時代となりました。

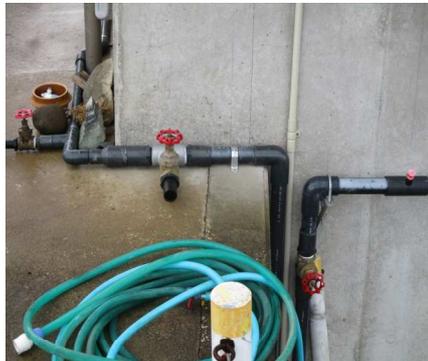
各家庭でも、高床式住宅に雪の自然落下屋根、家の周辺の雪は家庭用除雪機の普及に加え今日では井戸水を利用した消雪パイプの設置等で、昔と比べ雪国の生活もだいぶらくになりました。

我が家でも、これから降雪までに、家の周辺に設置してある消雪パイプの点検整備を行い来年3月末までの永い雪の季節に備えることとしています。

収納前のトラクター点検作業



家の周囲に設置された消雪用のパイプライン



今年の稲作りを振り返ると、雪解けも例年より早く苗作り、肥料のすき込み、耕耘、代掻き、田植え等の春の農作業は順調にすすみました。その後降水量の少ない梅雨と7月から8月上旬にかけては、全国的に異状とまでいわれた、晴天の高温がつづきましたが、8月の旧盆以降は一転して長雨の天候不順が秋の収穫期までつづいたため、当初は大豊作が予想されましたが、結果的には新潟県の作況指数で「やや不良」の判定発表がありました。

当農園でも昨年ほどの豊作とはなりませんでしたが、平年並みの良質米が生産できたことにほっとしています。

H27産コシヒカリ新米



出荷を待つ倉庫のH27産新米

発行者：〒944-0023 新潟県妙高市西条755

妙高西条農園長 池田博子

☎ 0255-72-3497 fax 0255-72-2908

URL : <http://www.kanta.jp> E-mail : ikedata@kanta.jp

今年の農園たよりは本号で休刊とさせていただきます